

# 第 1 回 昭島市事務事業外部評価委員会

## 議 事 要 旨

〔日 時〕 平成 26 年 8 月 6 日（水）14：00～15：30

〔場 所〕 昭島市役所 3 階 庁議室

〔出席者〕

### 1 委員

竹井和子委員、船越洋之委員、村上龍男委員、和田篤彦委員

### 2 事務局

佐藤副市長、早川企画部長、灘家行政経営担当主幹、萩原企画政策室長、板野財政課長、滝瀬財政係長、進藤企画調整担当主査、吉野企画調整担当主任

### 3 傍聴者 なし

〔配布資料〕

- ・第 1 回事務事業外部評価委員会 次第
- ・事務事業評価の概要について（資料 1）
- ・平成 26 年度 外部評価候補事業一覧（資料 2）
- ・平成 26 年度 外部評価候補事業 内部評価シート（資料 3）
- ・平成 26 年度 外部評価候補外事業一覧（資料 4）
- ・事務事業外部評価委員会委員名簿（資料 5）
- ・事務事業外部評価委員会要綱（資料 6）
- ・平成 26 年度 外部評価委員会実施予定（資料 7）

〔議事要旨〕

外部評価の実施にあたり、副市長より委員会設置の趣旨や委員への期待が述べられた。

### 1 委嘱状交付

副市長より各委員に委嘱状が交付された。その後、各委員及び事務局職員の自己紹介があった。

### 2 委員長及び副委員長の選出

委員の互選により、委員長に和田委員、副委員長に船越委員が選出された。

### 3 事務事業評価の概要について

### 4 外部評価候補事業について

事務局より、資料1に基づき、市の事務事業評価の概要についての説明、及び、資料2～4より平成26年度外部評価実施事業の選定等について説明が行われた。

《質疑応答》

◆ただいま、事務局より評価の概要及び評価候補事業についての説明があった。ポイントとしては、①評価事業数を8事業としたい ②外部評価候補事業一覧(資料2)に掲載されている8部の中から各1事業が望ましい ③内部評価で今後の方向性がA：成果拡大に向けて実施方法を見直し の事業は今後の展開がしやすい という事務局からの意見であった。ただ、これに拘ることなく、これまでも各委員がそれぞれの理由で事業を選定してきており、昨年度も候補外事業(資料4)からの選定もあり、次回委員会で対象事業の選定を行っていくが、事務局からの意見は参考として、候補を挙げていただき対象事業を選定していきたいと思う。自分の意見も入ったが、各委員から質問または意見があればご発言いただきたい。【和田委員長】

◆今回、学識経験者がこれまでより1名少ない形で委員会が構成されているが、どのような理由からか。  
【村上委員】

○当初、6名体制で考えており、公認会計士の方の内諾を得ていたが、直前で体調の問題から辞退され、やむを得ず5名での構成となってしまった。【事務局】

◆8事業を選定したいとの説明があったが、昨年までの評価から、内部の職員は良くやっていたいていると考えている。今回、選挙管理委員会、農業委員会という外部に近い部署の事業が候補として挙げられており、興味深く感じた。それ以外にも市の外郭団体、例えば社会福祉協議会などは職員も多く市以外にも国からの補助もあり、そういった団体の事業も見えていく必要があるのではないだろうか。外部とはいっても、市民、市とも関わりが深い。そういった団体を見る機会を与えていただきたいと思っている。【村上委員】

○確かに市との関係も深く補助金も交付しているが、市とは異なる組織であり、そこで行っている事業に対して、市の委員会から直接意見が言えるかどうか、困難性があると考えている。ただ、市の補助事業としての評価は可能だといえる。【事務局】

◆それに関連して、一般会計以外にも特別会計の事業も金額的には大きいものが多い。例えば国民健康保険特別会計、水道事業特別会計等、一般市民にも関係が深いと思うが、市民目線を入れるという考えはないのか。今回はこの形で進めるにしても、次回以降、検討していくことは可能か。そもそも高額予算を執行しているのになぜ内部評価の対象となっていないのか。【和田委員長】

○特別会計ということで市の裁量が働かない部分もあり、今後どうしていくかは研究させていただきたい。【事務局】

◆内部評価の対象となっていないのはなぜかということ調べることはできるのか。【竹井委員】

○事務事業評価を実施するにあたり検討はされていると思われ、一般会計に絞った理由等もあると思うので、当初の資料をあたってみたいと思う。【事務局】

○基本的には事務事業評価の概要について(資料1)にあるとおり、内部評価対象事業から除くものとして、まずは職員人件費が挙げられる。それから普通建設事業費、これは投資的経費で、事務事業評価が継続的な事業に主眼を置いていることから外している。その次に繰出金が挙げられているが、これは特別会計へ市民の税金から拠出するものである。ご案内のようになぜ特別会計を評価対象外として

いるかという、特別会計というのは法律または条例に基づき特定の事務について一般会計から切り分けた会計で行うものであり、例えば国民健康保険にしても介護保険にしても後期高齢者医療にしても、保険会計なので自ずと拠出金の割合が法律で決まっており、評価を受けこれをどうしていく、翌年度に繋げていくという考え方に馴染みにくいものであると思われる。たとえば国民健康保険では様々な要因から医療費が伸びているが、あえてそれを抑えようという施策を具体的にはできない。介護保険会計を抑制しようとすれば介護予防にお金を使うという方法があるが、その政策は一般会計で行っているものである。そうなってくると別に経理している会計に対し政策評価をかけても、その事業の改善をその政策評価によってはしにくい。こうした状況で、当初から内部評価においても対象から外してきている。ご承知のとおり、国保会計は10億円近い赤字を市民の税金から拠出しているわけで、大きな課題であると認識はしているが、なかなかそれが改善につながらない。そういった議論は市の内部や議会で行っていたり、多くの市民や監査からもご指摘をいただいているが、市民を交えた政策評価にはこれまでは馴染まないだろうという考えできているので、今後どのような形で進めていくかは考えさせていただきたい。【企画部長】

◆内部評価シートの見方についてだが、今後の方向性がAのものから選定するのが望ましいということだったが、例えば、Cは抜本的な見直しをするから外部評価の対象にしなくてよいと考えるのか。【船越副委員長】

○評価に馴染まないということではないが、例えば方向性がBのもの選ぶと、担当課でコスト改善に向けて実施方法を見直していきたいと判断しているものに対して評価をすることになる。方向性がCのものについても同様だが、担当職員が抜本的に見直した方がよいと考えているものも含まれるので、そういった点から評価していくことは可能である。【事務局】

○市の内部で行われている事業はこれまでの経過や市民ニーズも考慮するため、E：現状維持が多くなってしまいう傾向がある。方向性がAのものについては市としても積極的に取り組んでいきたいという意向がある。市としてはこのようにとらえているが、市民目線からどうなのかということをこの委員会で見ていただければと思う。【企画部長】

◆他になければ私からいくつか感想や質問も含めて申し上げたい。感想から述べさせていただくが、資料1の概要から平成25年度の内部評価の平均が12.9点ということだったが、平成23年度に実施した際には内部評価の平均は19点台だったと思う。見方が厳しくなっていると感じた。内部で行う評価は甘くなりがちであるが、市民目線を気にしているのか、掘り下げて評価に取り組んでいるのか非常にインパクトのある数字だった。同じ資料裏面に平成26年度の課題がいくつか挙げられているが、特に傍聴者を増やす取組について述べさせてもらう。広報に掲載し市民へ呼び掛けていただく取組は引き続き行っていただきたいと思う。外部評価開始当初は民主党政権時代の事業仕分けの影響もあってか、関心の高い市民や職員が傍聴に来ていたが、民主党政権の終焉とともに事業仕分けが消えたように、昨年度、傍聴者数は激減した。この委員会の目的は、事業を見直し次年度予算へ反映させることであると思うが、事業担当者である職員に外部目線を常に意識してもらうことも重要であると考えている。先ほど、事業に対する職員の見方が厳しくなっていると申し上げたが、逆のデータもある。事務局で今年の4月にまとめた「外部評価対象事業の今後の対応について」の中で、例えば平成25年度に評価を実施した産業活性化室のシルバー人材センター補助事業では、委員会の意見として外部監査を実施した方がよいという意見があり、報告書の中でも外部監査の要望が記載されたが、それに対する回答

の中では外部監査について一切触れられていない。委員会の要望に対して全くその要望に触れていない事業が10事業ある。検討する、しないの表現が全くない。鉄道駅自由通路等維持管理では鉄道事業者管理費の応分の負担を求めるよう働きかけていただきたいという委員会の要望に対し、担当課ができないとコメントを残しているが、産業活性化室は無視しているのか見落としているのか一切触れていない。できないというのも一つの見識であると思うし、検討する、やり方を研究していくという回答もあると思う。しかし全く触れられていない部署に対しては意見を発していきたい。その意味で職員の傍聴を増やして波及効果もあれば良いと考えている。【和田委員長】

○職員の傍聴については、いただいた意見を含めて庁内に連絡していきたいと考えている。【事務局】

◆職員に例えば業務として認めるなどの配慮もあればと思う。【和田委員長】

◆職員にも外部評価でのやりとりを聞いていただきたい。自分が行っている業務を市民がどう見てるか知っておくべきだということを管理職の方が職員に伝えるべきだと考えている。そのうえで、傍聴者からいただく意見も自分としては勉強になっている。また、説明する立場の職員にとっても評価する委員にとっても、傍聴者がいるということで一定の緊張感が保たれ、その中で話を進めるということも大事であると思われる。そうでなければ評価をする側も受ける側も言いつばなしになってしまう。和田委員長から話があったように、委員会の要望事項に対して、今後の対応の中でそのことに一切触れていない事業がある。できないならできないとはっきり言っていただいて構わない。こちらは法律的なことは分かっている場合もあり、市民目線から発言している。法的な縛りや他の理由からできないこともあると思われ、できない理由を述べていただければ市民として納得もできる。暖簾に腕押しではないが、委員会の要望事項に対応する姿勢を示していただきたい。自分が行っている業務を市民がどう見てるか、市民の生の声を聞くという姿勢を職員の方々に持っていただきたい。市としてあるべき姿を求めていく中で、そうした姿勢がよりよい形につながっていき、良い方向へ進んでいくのではないだろうか。【村上委員】

○総合的に検討させていただきたい。これまでも評価の場には課長、係長を出席させ、職場にはその状況を伝えてきた。また、要約した点はHPに掲載し市民の皆様にお伝えしている。臨場感、その場の雰囲気から感じられるものもあるということは理解しているが、人員削減の影響もあり、職員の傍聴体制をとるのが難しい職場もある。できることを検討させていただきたいと思う。個々の職員の人材育成は重要事項であり、良い機会なので経験させられればという思いも個人的にはあるが、考えさせていただきたい。【企画部長】

◆傍聴者アンケートから委員は勉強不足だという指摘もあった。法律上の知識を得たうえで、市民目線から評価をしていかなければならないのかどうかという問題はあるが、自分としても内容について最低限、基本を押さえないければならないということは認識しているので、傍聴者の意見もあながち間違いではないとも思っている。参考にもなっている。そういった意味からも傍聴者を増やしたい。他にしなければ次に進めさせていただく。【和田委員長】

## 5 その他

事務局から、平成26年度外部評価委員会実施予定（資料7）に基づき、今後の委員会の日程について説明が行われた。

◆それではこちらの予定に従い委員会を開催させていただく。来週末までに候補事業を挙げていただく

が選んだ理由を示した方が良いのか。【和田委員長】

○理由もつけていただきたい。【事務局】

◆これまではどのような事業が多かったのか。【船越副委員長】

◆予算額が大きいもの。予算規模に関わらず昭島市にとって重要だと思われるもの。例えば崖線という市内にハケがあるがその保全事業などは「水とみどりのまち あきしま」にとって重要だと思われたので評価を実施した。各委員が自分で重要だと考える理由をつけて候補を選定し、次回までに事務局で一覧にまとめてもらい、委員会で8事業程度に絞っていく。【和田委員長】

○事業一覧の中に区分という項目がある。経費、事業、管理に分かれているが、経費は市が行政事務を執行するうえでかかってくるもので、やめることはできないもの。そのため、効率的に予算が執行されているかどうかという視点からの評価になる。事業は政策予算なので、費用対効果、この事業の執行が市民福祉向上に役立っているかどうかという視点から、事業の改廃、反対に事業の拡充といった内容になる。管理は不動産管理、施設の運営費などで、公共施設も大きな課題があり、これまでも、こういった施設は不要ではないかという内容の議論をいただいていた。そういった選別で、内容的にもそのような議論になると思われる。それから予算額が大きいものという委員長からのお話もあったが、例えば資料2の77番 児童扶養手当支給事業費などは扶助費がメインで一律に削減ができない経費になっており、そういったものは状況説明、対象者をきちんと把握しているかというような内容になってくるかと思う。事業費であっても金額だけですべてが決まってくるかというのと、内容も一概には決められないものである。そういった視点も併せ持って、事業費、事務経費、施設運営費などのバランスにもご配慮いただければと思う。【企画部長】

◆評価時間について質問だが、当初は1事業1時間という設定だったが、時間内に終わらず次の事業の説明員である職員の方に待っていただくことも多々あり、昨年度、1事業1時間半の設定で行ったところスムーズだった。今年度も1時間半は確保したいが、いかがか。【和田委員長】

○昨年度と同じ設定で考えている。ただ昨年度より委員構成が1名少ないので、時間も短くなるものと思われる。【事務局】

◆了解した。それでは15日(金)までに候補事業を各委員から事務局にお伝えいただきたい。他になければ、以上で閉会とする。本日はありがとうございました。【和田委員長】

～閉会～